



しのづか元 (多摩みらいの会)

1. 少子高齢化を支える新たな仕組みを
2. 安心できる子育て環境をめざして
3. 連光寺六丁目農業公園について

問 新たな仕組みとして、スマホのアプリを活用した地域通貨のシステムの活用や、地域内の大学生の居住促進による地域ボランティア活動への参画とポイント交換による相互扶助が考えられる。市の見解を伺う。

答 ITツールの導入や、活動に参加することでインセンティブを感じられる仕組みにすることにより、若い世代の参加促進につながる。ご提案のアプリ活用やポイントの交換は、効果的な手段の一つである。まずは実証実験を重ねることから始めていきたい。

問 認可保育園の地域偏在を解消し、安心できる保育サービスの実現策として、駅前保育ステーションの設置を提案するが、市の見解を伺う。

答 保育需要と供給のミスマッチを解決する一つの手法であると認識している。実施に際しては検討を要する点はあるが、保育ニーズを偏りなく受け止められるようにしていくという面では検討を進めていきたい。保育園・幼稚園・こども園の連携でも取り組めることはないか模索していきたい。



おにづかこずえ (あすたま・維新)

多摩市と子ども・誰でも食堂の
関わり方について

問 社会福祉協議会は子ども・誰でも食堂にどのように関わっているか伺う。

答 寄付して頂いた食料品等を福祉資金等の貸付制度の案内をした困窮世帯へ個別配布。市内の子ども・誰でも食堂など食の支援を行う団体を経由し必要な方々への配布も行っている。

問 多摩市の支援の実態について伺う。

答 運営団体に対し補助金を交付。子ども達の居場所づくりの推進及び各団体の活動を支援する他、たま広報で特集を掲載、図書館でのパネル展示を通じ子ども・誰でも食堂の周知、情報提供に取り組んでいる。

問 今年度の補助金の最大金額と研修等が適宜行われているか伺う。

答 運営団体が月に一回程度開催する連絡会で、関連する部署の職員と情報を共有。補助金交付団体を対象とした虐待の未然防止及び早期発見に関わる研修を年に一回実施。必要に応じて関係機関への連携を行うよう促す。今年度の補助金の最大金額は96万円である。



中島律子 (あすたま・維新)

1. 特別支援学級新設について
2. 多摩市障がい者(児)移動支援事業について

問 インクルーシブ教育の趣旨からも、障がいのある児童が学区外の特別支援学級に通う事の負担などからみても、特別支援学級を増やして欲しいとの声があるがどうか。

答 本市の特別支援学級については適正な規模や配置を考慮して整備を進めている。保護者から就学相談があった場合すぐには設置できないが、ご意見は今後の設置検討の際の参考にさせていただく。

問 今まで通所や通学に利用できなかった移動支援サービスが市町村の判断により利用可能になった。多摩市でも導入していただきたいがどうか。

答 就労先や学校などにおける障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」の対応状況や、他制度における支援対策等を踏まえ、総合的に検討をすすめる必要がある。

対応していただく人員や財源の確保が課題となっているが、障がいのある方や保護者のニーズ、社会情勢の変化等を踏まえ、対応策について検討していく。



渡辺しんじ (公明党)

農業公園事業の進捗と今後の取組みについて

問 連光寺6丁目の里山保全地域を拡張しての農業公園事業だが、進捗状況を伺う。

答 農作物栽培の農体験事業や農的活用にかかる市民ワークショップなどを行い、段階的に進めている。

問 東京都が農業公園で収穫した農作物の販売を禁止しているが、経緯と対応を伺う。

答 保全地域のガイドラインは自然環境の保護が第一で副産物の売却は禁止となっているが、協議事項なので、市の考えを示して、理解を得ていきたい。

問 環境配慮型の農法であれば有機農法が適していると思う。世界的にも拡がりを見せているオーガニック野菜をシティセールスの一環として進めてもらいたいと思うが、どうか。

答 農作物の活用方法を持続可能な運営を含めて、検討していく。

問 来街定住促進にもつながる、農業公園事業をビジョンを持って進めてもらいたいと思うが、どうか。

答 市の特産になるような方向性で取り組んでいきたい。

